

1月号

School Aid Japan Cambodia

スクール・エイド・ジャパン・カンボジア

Dream通信

2010. 1. No.22



「夢追う子どもたちの家」体育の日 ～第2回運動会を開催しました～



去年の記録よりもみんな速くなっていました



お兄さんに背負ってもらう子もいました

運動会プログラム

- 1 開会式
- 2 50メートル走
- 3 大縄跳び
- 4 綱引き
- 5 昼食
- 6 スプーンリレー(低学年)
- 7 ドッジボール(高学年)
- 8 チーム対抗リレー
- 9 閉会式

皆さんあけましておめでとうございます。

今回のDream通信では、昨年11月に行われた運動会の様子をお伝えいたします。一昨年から始まったこの行事も今回で2回目を迎え、園の子どもたちに大人気の企画となっています。前日まで雨が降っており天候が危ぶまれましたが、楽しみにしていた子どもたちの思いが通じてか、運動会当日は見事な快晴となりました。

■ 第1種目 ～50メートル走～

最初の種目は前年と同じく50メートル走です。

子どもたちの表情は真剣そのもの。じっとゴールを睨みつけ、スタート前から緊張感が漂います。去年も走った子にとっては、去年の自分のタイムとの戦いでもあります。「よーい、ドン！」の合図とともに4人1組で一齐にスタート。たくましく育ってきた園の子どもたちは、コンクリートの地面をみんな裸足で駆け抜けていきます。勝って嬉しそうな子、負けて悔しそうな子、声をからしながら仲間を応援する子、そのひたむきな姿から子どもたちの運動会にかける熱い思いが伝わってきました。

■ 第2種目 ～大縄跳び～

次の種目は大縄跳び。前年も大人気で、園内に大縄跳びブームが起きました。「1(ムオイ)、2(ピー)、3(バイ)！」の掛け声とともに縄を大きく回し始めます。一方、中で跳ぶ子どもたちも「1、2、3、・・・」とみんなで声を合わせて跳んだ回数を数えていきます。たとえ途中で引っかけたとしてもすぐに列を整えて、あきらめずに何度も何度も跳び続けました。

■ 第3種目 ～綱引き～

続いての種目は綱引きです。この種目に関しては、今年からの新種目と言うこともあって、全8チームのリーダーたちが知恵を絞り合い、体格の良い子を前や後ろに揃えてみたり、掛け声に合わせて綱を引いてみたりと、思い思いの作戦を立てて勝負に臨みました。



声を合わせ、力の限り引っ張り続けました



何度もデッドヒートを繰り返しました



ドッジボールでは女子も活躍しました



ペットボトルをバトン代わりにつないでいきます

■ 第4種目 ～スプーンリレー～

昼食をはさんで最初の種目は、低学年の子どもたちによるスプーンリレーです。スプーンの上に乗せたスーパーボールを落とさないように走ります。前回の運動会では小さい子の活躍の場が少なかった、という反省点を活かして今年から新たにこの競技を取り入れました。練習では、スーパーボールがこぼれてあちこちを跳ね回り大混乱になりましたが、子どもたちの適応の早さはさすがです。本番では、どのチームもほとんどボールを落とさずデッドヒートを繰り返して、最後までどのチームが勝つのかわからない好勝負となりました。

■ 第5種目 ～ドッジボール～

続いての種目は、高学年の子どもたちによるドッジボールです。男女混合で行いましたが、男子は左手というルールで平等を帰しました。ひたすら大きい子にボールを集めるチームや、パスを多用してチャンスを狙うチームなど、チームごとの特色がでた面白いゲーム展開になりました。また、決勝戦は双方のエースプレイヤーが試合開始早々ボールに当たってしまう波乱の展開。それにもかかわらず、どちらも一歩も引かない一進一退の攻防で、制限時間いっぱいまで決着のつかない白熱した試合展開となりました。

■ 最終種目 ～チーム対抗リレー～

最終種目は運動会の華、チーム対抗リレーです。園全体を使って、1つのバトンをつないでいきます。リレーは他の種目に比べて得点配分が2倍となっており、まさに優勝がかかった大一番。今回は前年と違い、ランナーの順番も子どもたちが決めました。最初に早い子どもを固めるチームもいれば、バランス良く振り分けるチームもあり、この種目も他の種目と同様、リーダーの戦略性が問われるリレーとなりました。途中、大きく引き離されるチームもありましたが、それでもみんな最後まであきらめずにバトンをつなぎました。最後の走者が帰ってくると、大きな歓声と拍手が起こりました。みんな最後まで本当によく頑張りました。

■ 閉会式とその後

全種目が終了すると閉会式です。優勝チームには文房具などの賞品が贈呈されました。その日の夕食は今日一日頑張ったご褒美として特別にコーラが振る舞われたため、子どもたちは大喜び。勝ったチームも負けたチームも、お互いの健闘を称え合い、何度も何度も乾杯をしていました。子どもたちにとってもスタッフにとっても、大変思い出に残る、楽しくて大切な一日となりました。